

議案

労働會館建設積極的の支持に關する件

提案本部
説明大森種市

大阪聯合會が計畫する全勞働會館を積極的に支持し、一日もそれが完成を早やからしめんために努力する事、

理由

今日日本の労働運動の立て前において労働會館の必要な事は敢て論ずる必要がなからう
金融コンチエルの急速な形成、各種産業團體の全國的な統一の前に全階級力を集中し動員する爲に我等は我等の全戦線の統一に向つて凡ゆる努力をして来たのである。我々はこの戦線の統一に向つて邁進する一方、日常闘争に

於て直接に據るべき城塞の建設のために努力して来たのである。

即ち労働組合を我々労働階級の恒久的な常備軍として築きあげるためには我々の金と我々の會館が必要だ。闘争基金の重要性については屢々協議されて来て、各支部、各支部聯においてもそれなりの具體運動に既に遣いつてゐる我々はこの運動に併行して、我々のパルクートとしての、城塞としての會館は是非共必要になつて来るのだ。

大阪聯合會の方針は

- 一、建坪 三百坪、三階建
 - 一、総工費 約五萬圓
 - 一、組合事務所として
 - 一、集会所として
 - 一、會議室として
 - 一、應接室として
 - 一、労働者、圖書館として
 - 一、診療所として
 - 一、消費組合の事務所として
 - 一、一般無産團體の集会所として
 - 一、プロレタリア映画演劇のための會場として
- 建設される事になつてゐる。我等本大會において親愛な

る同志諸君の熱烈なる支持のもとにこの運動を積極的に守りたいと思ふのである。

實行方法

本月中に全組合員の日収一日分を支出する事、
国防献金等の金は出来るだけ労働會館建設基金にまわしてゐた代いて、労働者防衛に充當して貰ふ事、
具體方法は職場の都合と組合員自身の都合もあろうから各支部においてそれぞれ適當な方策をたてる事

インフレーション闘争に關する件

提案本部
説明山口昌一

インフレーション政策は物價の暴騰を來し、全無産階級の生活權を剝奪し支配階級の奉仕であり、植民地侵略帝國主義××の原動力である。

理由

一、インフレーションの原因並に其の進行過程
世界資本主義第三期に於ける一切の政策がデフレーションの政策——インフレーション政策を間はず經濟的原因としての必然性の上に打起せられたる、經濟政策に基くものに非ずして××××的××××基礎とするものである、其の政治的支配權を掌握する金融部門の政治的支配力に依つて遂行せられたるものである。
濱口内閣のデフレーション政策も——金融出解禁により世界經濟の常道に名を藉口して金融部門への忠實なる奉仕であつた。(金融輸出に依つて金融資本家の利益表を略す)
大森内閣の金融輸出再禁止も亦濱口内閣のとれる政策と同様金融部門の思惑に驅り立てられ(非買約六億圓)再禁止を斷行するに至つた(昭和六年二月正貨現在八億三千二百二十萬四千圓、同七年二月四億三千五百萬圓)此の政策は必然的に爲替相場の下落を餘儀なくせしめる爲には内閣を更迭し、他面にはデフレーション時代に引下げたる低率貸銀によつて利潤を得る目的のもとに前段の政策への強行がなされたのである。
これ即ち第三期に於ける支配階級の全面的政策の遂行で